

第2編 水道

I 事業の概要

1. 沿革

大正元年	水道布設の議起こる
2年	第1回水源地調査に着手（小川平一郎工学博士に調査と設計を委嘱）
13年 6月	第2回調査を実施（沢井準一工学博士に委嘱）
12月16日	市議会で水道布設計画議決
12月17日	水道布設認可申請書を内務大臣へ提出
14年 4月1日	水道部設置
4月8日	水道布設認可（内務省分衛第1号）
5月2日	起債許可により用地買収を開始
5月30日	水道布設工事に着工
昭和2年 2月14日	大分市水道使用条例施行
7月10日	給水開始（給水人口7,589人）
7月25日	通水式（三芳浄水場）
3年 12月25日	大分市水道誌発行
7年 4月1日	計量にメーター制採用
12年 4月9日	三芳浄水場に塩素滅菌機を設置
5月5日	水道創設10周年記念式典
26年 9月	三芳浄水池公園開園
11月10日	第1次拡張事業計画認可（厚生省分衛第197号）
27年 4月10日	第1次拡張事業工事に着工
8月1日	地方公営企業法公布
10月1日	地方公営企業法施行
28年 5月9日	水道創設25周年記念式典
29年 6月	滝尾地区配水管布設工事完成
7月10日	上野地区水道加圧施設完成
32年 6月15日	水道法公布
8月	第1次拡張事業工事完成（施設能力28,000m ³ /日）
10月5日	水道創設30周年記念式典（三芳浄水場）
34年 7月25日	第1回水道週間
35年 12月28日	第2次拡張事業計画認可（厚生省分衛第926号）
36年 10月23日	光吉浄水場浄水池予定地のボーリング調査工事に着工
37年 10月10日	水道創設35周年記念式典（三芳浄水場）
12月15日	光吉浄水場浄水池築造工事完成
38年 3月10日	6市町村合併により新大分市発足（人口216,130人）
7月15日	水道局制施行
7月31日	光吉浄水場第1期工事完成（施設能力12,000m ³ /日）
8月1日	光吉浄水場通水開始
39年 1月30日	新産業都市の指定を受ける
5月31日	坂ノ市上水道（2,500m ³ /日）給水開始

昭和39年	7月31日	森岡山配水池（6,000m ³ ）完成
40年	4月1日	大分市水道条例施行
	5月31日	光吉浄水場第2期工事完成（施設能力32,000m ³ /日となる）
41年	1月7日	第3次拡張事業計画認可（厚生省環第12号）
	12月19日	光吉浄水場第3期工事（18,000m ³ /日）に着工
42年	3月31日	森岡山配水池第2期工事完成（容量10,430m ³ となる）
	3月	第2次拡張事業工事完成（施設能力60,000m ³ /日）
	5月31日	光吉浄水場第3期工事完成（施設能力50,000m ³ /日となる）
	12月5日	えのくま浄水場第1期工事（30,000m ³ /日）に着工
43年	9月10日	庄の原第1配水池工事（2,500m ³ ）に着工
44年	4月1日	メーター検針隔月となる
	5月31日	えのくま浄水場第1期工事完成（施設能力30,000m ³ /日）
	6月1日	えのくま浄水場通水開始（畑中水源地、松岡水源地廃止）
	6月30日	庄の原第1配水池（2,500m ³ ）完成
	11月1日	三芳浄水場ろ過池の配水池への改造工事（12,600m ³ ）に着工
45年	5月31日	三芳浄水場ろ過池の配水池への改造工事（12,600m ³ ）完成
	6月1日	第1次配水管整備事業（5か年計画）に着工
	7月30日	横尾浄水場建設用地買収完了
	8月1日	えのくま浄水場第2期工事（28,000m ³ /日）に着工
46年	1月	料金調定業務を電算化
	4月	料金消込業務を電算化
	6月30日	えのくま浄水場第2期工事完成（施設能力58,000m ³ /日となる）
	9月10日	横尾浄水場第1期工事（30,000m ³ /日）に着工
47年	6月30日	横尾浄水場第1期工事完成（施設能力30,000m ³ /日）
	7月1日	横尾浄水場通水開始
49年	9月1日	横尾浄水場第2期工事（30,000m ³ /日）に着工
50年	6月1日	第2次配水管整備事業（5か年計画）に着工
	6月25日	えのくま浄水場排水処理施設工事に着工
	7月1日	光吉・横尾各浄水場排水処理施設工事に着工
	7月31日	横尾浄水場第2期工事完成（施設能力60,000m ³ /日となる）
51年	3月1日	水道料金が口径別用途別の併用制となる
	3月20日	光吉・えのくま・横尾各浄水場排水処理施設工事完成
	3月	第3次拡張事業工事完成（施設能力170,500m ³ /日）
	4月1日	漏水調査業務委託開始
52年	8月1日	第1回水の日
54年	3月31日	えのくま浄水場排水処理施設増設工事完成
55年	3月20日	水道局新庁舎建設工事完成
	6月1日	第3次配水管整備事業（5か年計画）に着工
	8月8日	庄の原第2配水池工事（10,000m ³ ）に着工
56年	3月10日	庄の原第2配水池（10,000m ³ ）完成
	4月	100戸以上の新規開発団地への給水を保留

昭和57年	9月	えのくま浄水場3号沈澱池完成
58年	3月20日	横尾浄水場排水処理施設整備事業（天日乾燥施設等）完成
59年	7月24日	第1回節水の日
60年	6月1日	第4次配水管整備事業（5か年計画）に着工
	12月16日	三芳配水場増量工事に着工
61年	3月31日	第4次拡張事業計画認可（厚生省生衛第272号）
		（認可の主な目的）古国府浄水場の建設等の施設整備計画
	4月1日	水道モニター制度発足
62年	2月2日	古国府浄水場建設起工式
63年	3月10日	三芳配水場増量工事完成（容量30,000m ³ となる）
	3月31日	第4次拡張事業計画変更認可（厚生省生衛第759号）
		（認可の主な目的）大分川ダム開発水量による施設能力の変更
	5月1日	メーター取替業務委託開始
	6月	古国府浄水場第1期工事完成（施設能力80,000m ³ /日）
	6月20日	古国府浄水場一部通水
	7月28日	暫定豊水水利権許可（10,000m ³ /日）
	9月	100戸以上の新規開発団地への給水保留を解除
	11月1日	通水60周年記念誌発行
	12月23日	大分川ダムの建設に関する基本計画の告示（取水量108,900m ³ /日）
平成元年	4月1日	機構改革実施（部制を敷く。総務課、中央営業所、東部営業所、西部営業所、工務計画課、浄水課の3課3営業所体制）
	10月1日	修繕工事等に関する業務委託開始
2年	4月1日	第5次配水管整備事業（～平成6年度）に着工
	4月21日	石川配水場工事（36,000m ³ ）に着工
	8月1日	古国府浄水場管理棟1階に水道資料館完成
3年	4月1日	古国府浄水場排水処理施設運転保守管理業務委託開始
4年	3月15日	石川配水場（36,000m ³ ）完成
	4月1日	えのくま浄水場排水処理施設運転保守管理業務委託開始
5年	4月1日	機構改革実施（総務課、中央営業所、東部営業所、西部営業所、計画課、配水課、浄水課の4課3営業所体制）
	9月3日	台風13号による大雨で道路陥没、岡原で配水管が切断され大南方面で約6千戸が断水
6年	4月8日	太平寺配水場工事（30,000m ³ ）に着工
	7月12日	連日の猛暑により、過去最高の173,191m ³ の給水量を記録
	7月15日	喝水対策本部設置
	10月31日	丹川配水池（3,000m ³ ）完成
7年	1月20日	阪神淡路大震災による被災者への飲料水確保のため救援隊派遣 （以後、給水班、施設復旧班として延べ30人派遣）
	4月1日	第6次配水管整備事業（～平成11年度）に着工
	5月29日	大分川ダムの工事用道路起工式

平成8年	4月19日	日本水道協会大分県支部水道災害応援要綱を日本水道協会大分県支部会員市町村と策定
	8月30日	七瀬川水管橋完成 太平寺配水場（30,000m ³ ）完成
	12月27日	大分市水道事業総合計画策定
9年	12月18日	大分市水道事業給水条例施行
10年	3月10日	水道局庁舎増築工事完成
	4月1日	機構改革実施（総務課、経理課、中央営業所、東部営業所、西部営業所、計画課、配水課、給水課、浄水課の6課3営業所体制） 配水管網解析システム運用開始
11年	3月	通水70周年記念誌発行
	5月1日	自己電算処理開始、ハンディターミナルシステム運用開始
	7月1日	上・下水道料金システム運用開始
12年	4月1日	第7次配水管整備事業（～平成16年度）に着工 3階建て建築物直結給水開始
	4月17日	量水器情報管理システム運用開始
	6月14日	大分川ダム建設に関する基本計画変更（第1回）の告示（平成22年度完成）
	9月29日	松岡配水池（3,600m ³ ）完成
13年	4月1日	配水施設情報管理システム運用開始
	4月2日	暫定豊水水利権許可（23,000m ³ /日）
14年	4月1日	水道メーター検針業務委託開始
	9月2日	第4次拡張事業変更第1回届出（厚労省受理番号第0902019号） （届出内容）簡易水道事業（平野）の統合
15年	6月3日	第4次拡張事業変更第2回届出（厚労省受理番号第0603001号） （届出内容）簡易水道事業（内植田）の統合
	11月1日	水道局全局ネットワーク運用開始
16年	10月1日	文書管理システム運用開始
	12月27日	第4次拡張事業変更第3回届出（厚労省受理番号第1227001号） （届出内容）市町村合併に伴う事業の全部譲り受け
17年	1月1日	佐賀関町・野津原町と合併、新大分市発足（人口464,223人）
	4月1日	企業会計システム運用開始
	9月10日	台風14号に伴う災害支援として宮崎市に応急給水隊派遣 （延べ24人派遣）
18年	1月1日	コンビニ収納開始
	4月1日	直結給水範囲拡大（増圧することによって3階～10階の直結給水を開始）
19年	11月1日	電子申請システム導入（水道使用開始届・水道使用中止届）
	12月	通水80周年記念ペットボトル水「おおいたん水」作成
20年	4月	大分市水道事業基本計画策定
	7月17日	大分川ダム建設に関する基本計画変更（第2回）の告示（取水量35,000m ³ /日）
	11月	大分川ダムの仮排水路トンネル完成

平成20年	11月17日	第4次拡張事業計画第2回変更認可（厚生労働省発健第1117004号） （認可の主な目的）簡易水道事業（室生、田ノ浦、一尺屋、野津原東部、野津原中部、野津原西部）の統合、取水地点（大分川ダムの既認可水量）の変更、浄水方法（大志生木、岩ノ下浄水場）の変更
21年	2月4日	大分市水道事業経営評価委員会設置
	4月1日	機構改革実施（総務課、経営管理課、営業課、維持課、計画課、浄水課の6課体制）
	7月15日	佐賀関配水池（2,000m ³ ）完成
22年	4月1日	横尾浄水場及び導水ポンプ所運転管理業務委託開始
	10月1日	野津原東部、中部簡易水道を上水道に統合
	12月	平和市民公園に飲料水兼用耐震性貯水槽（100m ³ ）を設置
23年	1月25日	前年秋以降の少雨により市東部地区（坂ノ市・佐賀関）の浄水場において地下水位が低下したため、湧水対策本部を設置
	3月14日	東日本大震災に伴う災害支援として、福島県いわき市に全3班、延べ12人を派遣し、応急給水活動を実施
	4月1日	水道における給水異常や災害発生時の給水支援等に関する協定を大分県薬剤師会と締結
24年	3月	「みずタン」をマスコットキャラクターに決定
	6月22日	大分市水道局公式Twitter（ツイッター）運用開始
	7月12日	九州北部豪雨に伴う災害支援として、竹田市に全9班、延べ43人を派遣し、応急給水活動を実施
25年	1月	大分いこいの道広場に飲料水兼用耐震性貯水槽（100m ³ ）を設置
	4月1日	えのくま浄水場運転管理業務委託開始 三芳配水場と太平寺配水場の緊急時連絡管完成
	11月15日	大分市水道局公式Facebook（フェイスブック）運用開始
	11月29日	岩ノ下浄水場に膜ろ過施設完成（2,500m ³ /日）
26年	1月28日	大分市水道局と大分市管工事協同組合との災害時の応急活動の協力に関する協定を大分市管工事協同組合と締結
	2月16日	大分川ダム本体建設工事起工式
	5月30日	大分市水道局災害時支援協力員制度発足
27年	2月25日	大分川ダム建設に関する基本計画変更（第3回）の告示（平成31年度完成）
	3月	大分市水道事業基本計画～大分市水道事業ビジョン～策定
	4月1日	料金関連総合業務委託開始 大分市水道局優良建設工事表彰開始
	5月	室生、田ノ浦、一尺屋、野津原西部簡易水道を上水道に統合 大分市水道局水安全計画公表
28年	1月27日	異常寒波により水道管が凍結し断水が発生した杵築市において応急給水活動を実施（延べ14人派遣）
	2月28日	大分川ダム本体工事定礎式
	4月15日	熊本地震に伴う災害支援として、熊本市はじめ熊本・大分両県の市町村に応急給水、復旧支援活動を実施（延べ110人派遣）

平成28年	7月1日	鉛給水管取替工事助成金制度開始
	11月	口座振替データ伝送化（16銀行）開始
	12月	口座再振替対応開始
29年	2月1日	古国府浄水場運転管理等業務委託開始
	4月1日	大口使用者等特別料金制度開始 災害時の応援業務に関する協定をヴェオリア・ジェネッツ(株)と締結 料金関連総合業務委託をA区・B区に分割
	4月21日	古国府浄水場薬品注入棟更新工事完成
	6月	通水90周年記念誌発行
	9月18日	台風18号に伴う災害支援として、津久見市において応急給水活動、漏水調査、洗管作業を実施（延べ127人派遣）
30年	1月1日	富士見が丘団地専用水道を上水道へ統合
	1月25日	水道局庁舎増築（別館）完成
	2月14日	寒波により水道管が破損した九重町において応急給水活動、漏水調査を実施（延べ9人派遣）
	2月20日	大分川ダム湛水式
	3月15日	上野配水池（659m ³ ）更新工事完成
	4月1日	水道局と下水道部が統合し、上下水道局が発足（総務課、経営企画課、営業課、水道維持管理課、水道整備課、浄水課、下水道整備課、下水道施設管理課の8課体制） 船舶用大口使用者等特別料金制度開始
	7月9日	平成30年7月豪雨に伴う災害支援として、広島県尾道市及び愛媛県宇和島市において応急給水活動を実施（延べ27人派遣）
	8月28日	大分川ダム建設に関する基本計画変更（第4回）の告示（建設完了時「ななせダム」に名称変更）
31年	3月18日	第4次拡張事業第2回変更第1回届出（厚労省受理番号薬生水収0318第4号）（届出内容）給水人口の増加
	3月	大分市上下水道事業経営戦略 ～未来へ渡そう美しい大分 上下水道3653日の挑戦～策定
	4月1日	三芳配水場において民設民営により小水力発電事業を開始 配水管等維持管理の一部を業務委託開始 スマートフォン検針開始、コンビニ収納拡大
令和元年	11月24日	大分川ダム完成式
2年	3月	大分市主要浄水場等再構築基本計画策定
	5月27日	森岡山配水池（8,500m ³ ）更新工事完成
	5月29日	大分川水系治水協定を大分河川国道事務所等と締結
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対する水道料金の減免措置（2年6月・7月請求分）
	7月1日	救急病院等医療施設への応急給水に関する覚書を大分市福祉保健部長と締結

令和2年	7月7日	令和2年7月豪雨に伴う災害支援として、玖珠町において応急給水活動を実施（延べ16人派遣）
3年	1月9日	令和3年1月7日からの大雪等に伴う災害支援として、中津市及び九重町において応急給水活動及び漏水調査を実施（延べ22人派遣）
	1月26日	特定多目的ダム法第13条（ダム使用権設定前の多目的ダムの利用）の許可をうけ、暫定豊水水利権23,000m ³ /日が安定水利権35,000m ³ /日となり、羽屋取水口の安定水利権が85,000m ³ /日となる
	1月	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対する上下水道料金の減免措置（3年2月・3月請求分）
	6月	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対する上下水道料金の減免措置（3年7月・8月請求分）
	9月	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対する上下水道料金の減免措置（3年10月・11月請求分）
4年	1月4日	上下水道料金の支払い方法にスマホ決済サービスを導入
	1月22日	日向灘の地震（震度5強）により大分市内で水道管等が破損し漏水が43件発生したため、漏水調査及び応急復旧活動を実施（延べ135人従事）
	6月29日	第4次拡張事業第2回変更第2回届出（厚労省受理番号薬生水収0629第1号）（届出内容）簡易水道事業（森ノ木）の統合
	12月	物価高騰の影響に対する水道料金の減免措置（5年1月・2月請求分）
5年	1月	上下水道管路台帳総合システム運用開始（配水施設情報管理システム、配水管網解析システム、公共下水道台帳総合システムの機能を一体化）
	2月1日	令和5年1月24日から26日にかけての大雪等に伴う災害支援として、竹田市において応急給水活動を実施（延べ12人派遣）
	3月	大分市上下水道事業経営ビジョン策定
	4月	大分市上下水道局水道管耐震化促進等貢献表彰開始
6年	1月	令和6年1月7日から2月15日にかけて令和6年能登半島地震に伴う災害支援として、能登町において応急給水活動を実施（延べ32人派遣）
	2月20日	水道水質検査優良試験所規範（水道GLP）の認定取得
	3月1日	古国府浄水場から横尾浄水場への緊急時連絡管完成
	3月	令和6年3月1日から3月20日にかけて令和6年能登半島地震に伴う災害支援として、輪島市において応急復旧活動を実施（延べ6人派遣）
	12月	「（仮称）送水隧道、判田小池原隧道点検事業」についての覚書を大分県企業局と締結
7年	1月	大分市上下水道耐震化計画策定（R7～R11）
	3月	えのくま浄水場脱水機設備更新工事完成

2. 水道事業計画の経緯

事業名	項目	認可（届出） 年 月 日	総 事 業 費 （千 円）	目 標 年 度	主 要 施 設			
		着 工 年 月 日	企 業 債 （千 円）	給 水 人 口				
		竣 工 年 月 日	国 庫 補 助 金 （千 円）	1 日 最 大 給 水 量				
			自 己 資 金 （千 円）	1 人 1 日 最 大 給 水 量				
創 設		T14. 4. 8	1,315	S11	取水施設 集水管 内法0.75m角138m 導水管 0.9m 157m 接合井 内径2m×深さ11m	送水施設 送水管 406.4mm 2,600m 送水ポンプ 3.625m ³ /分×75馬力 3台	浄水施設 緩速ろ過池 幅25m×長さ40m×4池 ろ過面積 1,000m ² ろ過速度 35m/日	配水施設 配水池 幅20m×長さ26.5× 有効水深3m×2池 配水管 457.2mm～88.9mm 61,665m
		T14. 5. 30	1,026	70,000人				
			131	10,500m ³				
		S 2. 7.	158	150 ℓ				
第 1 次拡張事業		S26.11.10	175,177	S40	取水施設 集水管増設 900mm 260m	送水施設 送水管 400mm 2,650m 送水ポンプ増強 7m ³ /分×190HP×2台 7m ³ /分×180HP×1台 5m ³ /分×125HP×1台	浄水施設 ろ過池増強 幅25m×長さ40m×2池 (計6池となる)	配水施設 配水管 450mm～75mm 30,246m 加圧ポンプ場及び配水池 (上野地区用) 新設
		S27. 4.10	147,000	100,000人				
			-	28,000m ³				
		S32. 8.	29,151	280 ℓ				
第 2 次拡張事業		S35.12.28	747,151	S50	(光吉浄水場新設－32,000m ³ /日) 取水施設 導水管 1,500mm 108.5m 取水ポンプ 12.73m ³ /分×37kw 3台	浄水施設 薬品沈殿池 3池 急速ろ過池 6池 浄水池 1池 消毒設備 1式	送水施設 送水管 700mm 1,550m 送水ポンプ 4台	配水施設 配水池 森岡山 (有効容量10,430m ³) 配水管 700mm～150mm 15,963m
		S36. 4.	718,000	200,000人				
			-	60,000m ³				
		S42. 3.31	29,151	300 ℓ				
第 3 次拡張事業		S41. 1. 7	6,644,876	S55	(光吉浄水場の拡張及びえのくま・横尾浄水場の新設) 光吉浄水場 (18,000m ³ /日) 取水ポンプ 1台 薬品沈殿池 1池 急速ろ過池 2池 送水ポンプ 1台 配水管 23,065m	えのくま浄水場 (58,000m ³ /日) 取水ポンプ 4台 薬品沈殿池 4池 急速ろ過池 8池 薬品注入設備 1式 送水ポンプ 4台 送水管 3,532m	横尾浄水場 (60,000m ³ /日) 配水池 (2ヶ所) 配水管 200mm 350mm 9,650m	導水ポンプ 4台 配水池 21,000m ³ 配水管 800mm 薬品沈殿池 4池 1,000mm～200mm 急速ろ過池 8池 36,455m 薬品注入設備 1式
		S41. 4.	6,374,000	390,700人				
			90,231	170,500m ³				
		S51. 3.30	180,645	436 ℓ				
第 4 次拡張事業		S61. 3.31	49,232,000	H3	(古国府浄水場新設－80,000m ³ /日) 取水施設 導水管 1,350mm 2条 沈砂池 2池	浄水施設 粉末活性炭接触槽 2槽 薬品沈殿池 6池 急速ろ過池 9池 浄水池 2池 薬品注入設備 1式	送水施設 送水管 1,000mm～600mm 送水ポンプ 210kw 3台 (森岡山系) 90kw 3台 (三芳系)	配水施設 配水池 30,000m ³ 配水管 900mm以下 65,300m
		S61. 4.	38,407,600	416,100人				
			7,270,662	197,200m ³				
		H 4. 3.	1,372,538 (その他 2,181,200)	474 ℓ				
第 4 次拡張事業 (変 更)		S63. 3.31		H18	(古国府浄水場の拡張－158,900m ³ /日) 取水施設 導水管 1,350mm×218.7m×2条 沈砂池 鉄筋コンクリート造 幅8.0m×長さ23.0× 有効水深3.9m×2池	浄水施設 粉末活性炭接触槽 6槽 薬品沈殿池 6池 急速ろ過池 15池 浄水池 2池 薬品注入設備 1式	送水施設 送水管 1,000mm～600mm 送水ポンプ 210kw 4台 (太平寺系) (森岡山系) 90kw 3台 (三芳系) 650kw 3台 (石川系)	配水施設 配水池 69,000m ³ 配水管 1,100mm以下 91,110m
		S61. 4.		515,800人				
				269,120m ³				
		H19. 3.		522 ℓ				
第 4 次拡張事業 (第 2 回変更)		(H20.11.17)	65,000,000	H30	(古国府浄水場の拡張－85,000m ³ /日) 取水施設 導水管 1,350mm×220.9m×2条 沈砂池 鉄筋コンクリート造 幅8.0m×長さ20.0× 有効水深2.5m×2池	浄水施設 粉末活性炭接触槽 6槽 薬品沈殿池 6池 急速ろ過池 15池 浄水池 2池 薬品注入設備 1式	送水施設 送水管 1,000mm～600mm 送水ポンプ 200kw 2台 (太平寺系) 210kw 3台 (森岡山系) 90kw 3台 (三芳系) 580kw 3台 (石川系)	配水施設 配水池 69,000m ³ 配水管 1,100mm以下 91,110m
		S61. 4.		471,000人				
				196,900m ³				
		R6. 3. (予定)		418 ℓ				
第 4 次拡張事業 (第 2 回変更) (第 2 回届出)		(R4.6.29)		R10	(給水区域の拡張に伴う変更)			
				476,000人				
				195,800m ³				
				412 ℓ				

3. 事業実績の概要

年 度 項 目		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
行 政 人 口 (人)		477,448	476,386	475,163	473,101	471,290
行 政 世 帯 (世帯)		225,511	227,321	229,500	231,206	233,184
給 水 区 域 内 人 口 (人)		476,119	475,089	473,973	471,925	470,123
給 水 区 域 内 世 帯 (世帯)		224,846	226,673	228,891	230,592	232,572
給 水 人 口 (人)		475,331	474,313	473,218	471,203	469,414
給 水 世 帯 (世帯)		224,479	226,307	228,529	230,237	232,220
普及率	対 行 政 人 口 (%)	99.56	99.56	99.59	99.60	99.60
	対 給 水 区 域 内 人 口 (%)	99.83	99.84	99.84	99.85	99.85
給 水 量 (m³)		51,303,762	51,078,080	50,817,136	50,359,649	50,739,796
有 効 水 量 (m³)		47,322,590	46,618,042	46,448,014	46,123,784	46,335,812
有 効 率 (%)		92.24	91.27	91.40	91.59	91.32
有 収 水 量 (m³)		45,644,710	45,255,371	44,935,637	44,643,881	44,797,876
有 収 率 (%)		88.97	88.60	88.43	88.65	88.29
1 日	最 大 給 水 量 (m³)	154,228	163,163	160,966	147,550	148,724
	最 大 給 水 月 日	1月10日	1月22日	1月26日	12月29日	1月13日
	平 均 給 水 量 (m³)	140,558	139,940	139,225	137,595	139,013
1 人	最 大 給 水 量 (L)	324	344	340	313	317
1 日	平 均 給 水 量 (L)	296	295	294	292	296
配 水 管 等 総 延 長 (m)		2,847,348	2,847,758	2,856,117	2,853,604	2,852,932
内 訳	導 水 管 (m)	11,375	11,375	11,242	11,231	11,260
	送 水 管 (m)	31,051	31,051	31,062	31,554	30,466
	配 水 管 (m)	2,804,922	2,805,332	2,813,813	2,810,819	2,811,206
職 員 数 (人)		161	160	152	152	154

※物価高騰（令和4年度）、新型コロナウイルス感染症拡大の影響（令和2年度、令和3年度）に対する減免措置の対象とした水量については、有収水量として計上

※職員数は各年度末の人数（管理者を含まず、任期付・再任用職員を含む。）

4. 事業の概況（令和6年度）

水道事業では、経営基盤の強化を図るとともに将来にわたり持続可能な事業経営を目指して、令和5年3月に「大分市上下水道事業経営ビジョン」（以下「経営ビジョン」という。）を策定し、経営ビジョンに掲げる【強靱】 【持続】 【安全】 を3つの柱として、それぞれの推進項目に基づいた施策に積極的に取り組んでいます。

（1）総括事項

【強 靱】 水道施設の強靱化

《経営ビジョンの推進項目 (1)水道管路の耐震化の促進、(2)災害時の給水確保、(3)危機管理体制の強化》

耐震管延長は、25.3km延びて569.6kmから594.9kmとなり、管路の耐震化率は、0.9ポイント増加して20.0%から20.9%となりました。

基幹管路のうち耐震適合性のある管延長は101.0kmから伸びなかったものの、基幹管路の耐震適合率は1.3ポイント増加して71.3%から72.6%となりました。

災害時の重要給水施設である大規模病院や行政機関などにつながる管路の耐震化については、植田市民行政センターへの配水管布設替工事(2工区)に着手しました。

災害時に主要浄水場間の水融通を可能にする緊急時連絡管の整備については、古国府浄水場～えのくま浄水場間の工事に着手しました。

【持 続】 経営基盤の強化

《経営ビジョンの推進項目 (4)管路・施設の更新、(5)管路・施設の効率的な維持管理、(6)将来の経営環境に備えた財政基盤の強化》

施設の更新の取組として、古国府浄水場の配水監視システム変更について導入可能性調査および基本設計を実施しました。

管路・施設の効率的な維持管理の取組として、高江グリーンハイツポンプ所を廃止し、配水施設の統廃合をすすめました。また新城原配水池について基本計画を作成するなど、東部配水能力の強化についても検討をすすめました。

【安 全】 安全・安心な上下水道サービスの提供

《経営ビジョンの推進項目 (1)適正な水質管理、(2)組織力の強化、(3)カーボンニュートラルの実現と資源の利活用、(4)D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進と広域連携への取組、(5)お客さまサービスの充実》

水道法に基づく水質基準の全51項目について適合しています。カルキ臭を感じさせないおいしい水を提供するため、本市では、平均残留塩素濃度の目標を、水道法に基づく基準「0.1mg/L以上」より厳しい「0.1mg/L以上0.4mg/L以下」としており、目標値を達成しています。

温室効果ガス排出量削減の取組として、えのくま浄水場において、汚泥減容化システムに適合する脱水機への更新工事が完了しました。

D X推進の取組として、水道スマートメーターによる検針を市内小中学校14か所で開始しました。

（2）給水状況

本年度の給水人口は469,414人、給水世帯は232,220世帯となり、前年度に比べ給水人口は1,789人（0.38%）の減少となり、給水世帯は1,983世帯（0.86%）の増加となりました。

また、行政人口に対する普及率は99.60%で、前年度から増減がありませんでした。

次に年間給水量は50,739,796m³、一日最大給水量は148,724m³で、前年度に比べ年間給水量は380,147m³（0.75%）の増加し、一日最大給水量は1,174m³（0.80%）の増加となりました。

(3) 建設改良事業の状況

○浄水施設費

浄水施設の整備、更新を目的とするもので、本年度は1,096,267千円を支出し、えのくま浄水場脱水機本体設置工事等を行いました。

○配水施設費

配水施設の整備、更新を目的とするもので、本年度は4,623,415千円を支出し、市道猪野8号線道路改築工事に伴う配水管布設替工事を行ったほか、市内一円で老朽化した配水管の更新工事等を行いました。

○営業施設費

営業施設の整備、更新を目的とするもので、本年度は140,119千円を支出し、大分市上下水道局本庁舎非常用発電設備更新工事等を行いました。

○固定資産購入費

固定資産の購入、更新を目的とするもので、本年度は74,910千円を支出し、量水器等を購入しました。

(4) 財政状況

本年度の収益的収支においては、収入が10,458,673千円で、前年度に比べ 120,926千円（1.2%）の増加となっています。

このうち、水道料金収入は9,168,423千円で、前年度に比べ56,087千円（0.6%）の増加となっています。

一方、支出は9,142,964千円で、前年度に比べ381,984千円（4.4%）の増加となっています。この結果、税抜きで806,200千円の当年度純利益を計上しました。

また、資本的収支においては、収入2,318,084千円、支出7,757,333千円となり、5,439,249千円の不足額が生じましたが、損益勘定留保資金等で補てんしました。